

JA鳥取県人権・同和問題対策推進本部からのお知らせ

JAグループ鳥取では人権・同和問題に対して「第7次（2018～2020年度）JA鳥取県人権・同和問題対策推進方針」をもとに、差別と偏見のない社会の実現のために取り組んでいきます。

組合員の方はもとより、地域住民の方にも人権・同和問題が身近な存在であることに気づいてもらうため、第7次（2018～2020年度）の期間中、人権・同和問題に対する啓発記事を年4回連載します。

第17回「多様な性について考えよう」

みなさんは「LGBTQ」を知っていますか？「LGBT」はレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をつなげたもので、性的少数者の総称として、新聞記事等で見かけることも多くなってきました。では“Q”とは・・

「LGBTQ」の“Q”はクエスチョニングの頭文字(※)です。クエスチョニングとは、自分の性別がわからない人や意図的に決めていない人、決まっていない人、模索中である人のことを指します。

「LGBT」の4つは、どれも「男性・女性」という2つの性別に基づいています。しかし、日本をはじめ世界中にいる「自分は男女どちらでもない」「自分は誰も愛することができない」といった、「LGBT」にあてはまらない人も数多くいます。

性は、男性／女性と明確に線引きできるものではなく、目に見えない曖昧さをもっています。曖昧さや言葉では言い得ない範囲も含めて、多様なセクシュアリティが存在することを、グラデーションという言葉で表現されます。

世の中には様々な人が存在し、どれが正解という決まりごとはありません。誰もがそれぞれの性のあり方を大切にし、それを他の人から否定されないという権利があります。私たちは、つい多数派の意見や状態を「あたりまえ」と考えがちです。また、自分の「知識不足」が知らないうちに誰かを傷つけているかもしれません。「これが普通」という固定的な考えを持つことなく、様々な人たちが一緒に暮らしていることを念頭に入れた社会づくりをしていきたいですね。

※このほかに“Q”は性的少数者の総称を表す「クィア」という意味でも使われています。